



9 月になりましたが、夏の暑さが続いています。夏の疲れが出やすくなる時期ですので、しっかり水分補給をすること、食べること、睡眠をとることを守り体調を崩さないようにしましょう。体調の変化があればお知らせください。

幼児部（ゆり・ばら・ほしぐみ）全員の視力・聴力検査が終わりました。園での検査は照明の明るさの程度や騒音などの面で病院とは異なり、結果に多少の誤差がでていると思います。

結果が良くなかった場合は、必ず医療機関を受診し、その結果を園までお知らせください。乳児部（ぶどう・はと・ひつじぐみ）の方も、家庭で気になることがあれば、早めに受診することをおすすめします。



視力の発達にはタイムリミットが

赤ちゃんや就学前の子どもは、0.2 程度の視力があれば、不便なく日常生活を送れるため、多くの保護者は子どもの視力不良や、片目の視力だけが弱いことに気づきにくいといわれています。しかし、視力が発達するのは 6～8 歳まで。その年齢まで見えにくい状態を放置しておくと、眼鏡をかけても視力が出ない「弱視」になってしまいます。気になることがあれば 3 歳児健診を待たずに受診して、早期発見・早期治療をすることがとても重要です。

◀ 当てはまるものがあれば受診して！ ▶

☐ 物を見るとき、左右どちらかに頭を傾ける、顔を回す、あごを上げる（下げる）	
☐ 片方の目（視線）が内側に寄っている	☐ 片方の目（視線）が外側に向いている
☐ 目を細めて見る	☐ 極端に近づいて見ようとする
☐ 上目づかい（下目づかい）で物を見る	☐ まぶたの形（大きさ）に左右差がある
☐ 屋外で異常にまぶしがる・いやがる	☐ 瞳の中央（奥の方）が白く光る



ちゃんと聞こえているかな？

〔 難聴の原因になる感染症など 〕

中耳炎 おたふくかぜ 先天性風しん症候群など

病気で起こる難聴があります

聞く力は、言葉やコミュニケーション力を育むために欠かせないもの。難聴がある場合は、一日も早く専門的な治療や指導を受ける必要があります。難聴には先天性と後天性がありますが、2～6 歳の難聴の原因の大部分を占めるのが滲出性中耳炎です。程度は軽くても数年にわたって続くと、言葉の習得に影響が出ることもあります。聞き返しが多くなったり、テレビに近づいて聞く様子などが見られたりしたら、早めに耳鼻科を受診しましょう。



妊娠中の風しん感染で、胎児が難聴になることも



おたふくかぜの後遺症で難聴になることもあるよ

園でのお薬の飲ませ方

◎ぶどうぐみ

水薬：スプーンで少量ずつ飲むか、哺乳瓶の乳首を使用し吸うのを確認してから少しずつお薬を入れる。

粉薬：スプーンに粉薬をいれてほんの少しお茶をすくい、お口の中へ。その後、お茶を飲む。

◎はとぐみ・ひつじぐみ

粉薬：コップに少量のお茶と薬を混ぜて飲む。その後、お茶を飲む。

水薬は、はとぐみ以上の場合はそのまま内服。

◎ゆりぐみ以上

粉薬：口の中に直接粉薬をいれてその後水分摂取。

基本的に上記の記載の方法で内服しています。園では「おくすり飲めたね」などの服薬補助ゼリーは使用しません。

※園での内服は誤薬予防のため極力避けて頂き、受診の際に 1 日 2 回の投薬が可能か確認をお願いします。どうしても投薬が必要な場合は 1 つの袋に記名した薬、与薬以依頼票、お薬の説明用紙をまとめて登園時に直接保育者に手渡ししてください。